

# 神奈川県環境学習リーダー会 会報 No. 34

2003年  
8月9日

## 役員会報告 (事務局長 山田あや子)

8月役員会 8月11日(月)

1. 「第1回意見交換会および自然観察会(10月18日、19日)」の参加者募集は8月末にeメールとFAXで募集し、会報34号(別記参照)でも募集することを決定。
2. 地域活動サポート部の人員を次の通り決定。  
部長：木本光昶、  
部員：石丸博司、高田重直、黒澤宏
3. 近藤代表の提案「代表経験者との懇談会」を9月4日かながわ県民センターで開催を決定。
4. 賛助会員の入会に伴い、正会員と賛助会員・特別会員を明確にする会の規約改定案を決定。  
来年3月の総会で改定を提案。
5. 報告事項

県環境基本計画・進捗状況説明会は8月6日に開催、当会から16名参加。

郡小研家庭科部会依頼の環境研修会は、水質関係を柳川氏、NO2関係を近藤代表が担当。

環境科学センターの養成講座最終日(10月11日)に当会がワークショップを担当。修了式終了後、当会の説明と入会勧誘を行なう。

9月役員会 9月8日(月)

1. 飛鳥間氏の役員辞任申出(健康上の理由)を了承。環境モニタリング部会担当役員は、当面近藤代表の兼任を決定。
2. 広報部提出の当会パンフレットの改定案を討議。

カット：ヘクソカズラ

他の木々にからみつきながらのびていく蔓性の植物。なんとも情けない名前は茎や葉を揉むといやな臭いがするところから付けられました。サオトメカズラの別名もあります。

花そのものは白く小さく、花の中心が赤くなっていて可愛い。晩夏の野山で咲き始め、次々と丸い実になります。葉を落としたあとの蔦と実はリースの飾りになります。花期は8月～9月。

3. 第10回市民環境活動報告会(平成16年2月15日)の実行委員と発表者の公募(会報34号にて)及び第1回実行委員会の10月7日開催を決定。
4. 来年の「親子で楽しむ環境展」は、平成16年6月13日(日)かながわ県民センターで開催を決定。実行委員長に北村氏を決定。
5. 「受託事業についての役員申し合わせ」を決定(別記参照)。
6. 報告事項  
「郡小研」研修会は会員3名が講師として実施。大変参考になったとの高い評価を得た。「代表経験者との懇談会」は歴代代表全員と役員5名が出席して開催された。会費の納入状況について会計担当から報告(納入者114名)。未納者宛の振替用紙を会報34号に同封する。
7. 当会の勉強会を兼ね、環境問題に取り組んでいる企業などの見学会等の新規事業の提案が近藤代表からあり、今後検討。

## 「子ども環境体験教室」を終えて

環境科学センター 生駒 進

今年も環境学習リーダーの皆様の熱意により「子ども環境体験教室」を充実した内容で実施し、終了することができました。「子ども環境体験教室」は、子どもたち(小学4年生から中学生が対象)が自ら観察したり、作ったり様々な体験をすることを通して、楽しみながら環境について考えていかれるようにと、昨年度より企画した事業です。今年度は、実施期間を夏休み中のみにして5教室を企画したところ、定員(各教室24名、全教室120名)を大きく上回る204名の応募がありました。「ツバメ・朝顔で環境チェック」、「写真立てを作ろう」、「ケナフ染めに挑戦しよう」はそれぞれ19名、27名、29

名の申込者全員を受け入れ、「ソーラークッカーを作ろう」は28名まで枠を増やし、「節電コンセントを作ろう」は別に日程を組み追加実施し46名を受け入れ、合計6教室として149名を受け入れることができました。これは、各教室を担当して下さったリーダーの皆様が、「参加したい」という子どもたちの気持ちを大切にあげたいと、受け入れへの熱意のおかげでできたことと感謝しております。

参加した子どもたちは新たなことに気づいては驚き、思いもよらなかったようなすばらしいものができては感動し、使ったことのない器具や道具が使えるようになったと自信を持ち、様々な顔を見せて

くれました。「まずは体験、意味づけはそれから」というこの教室の企図は、子どもたちに大きなインパクトを与えることができたと思っております。そして身近な環境の大切さに気づいてくれたと思っております。

子どもたちは楽しさや驚き、感動を次のように述べてくれました（アンケートより抜粋）。

#### ツバメ・朝顔で環境チェック

「ツバメやジョロウグモの生息している所とかをくわしく教えてくれてとても分かりやすかった」「ツバメ、ジョロウグモがこんなに近くにいてびっくりした」

#### ソーラークッカーを作ろう

「太陽の光で料理を作ることができたのでびっくりしました」「太陽のエネルギーはとても熱いんだなー、とかごみを出さないようにしなきゃなと思いました」

#### 節電コンセントを作ろう

「コンセントを作るときも楽しかったし、電気を起こすときも楽しかった」

「エネルギー、電気の大切さがわかった」

#### 写真立てを作ろう

「思ったより難しかったけどすごく楽しかった」

「古紙を何枚も重ねて紙管を作っているのがすごいと思った」

#### ケナフ染めに挑戦しよう

「染め物はやってみたかったし、その上環境につい

てもよくわかったのでとても勉強になりました。今度は他の植物の染め物にチャレンジしてみたいです」「染めてゴムをとるとき、どんな模様になるかワクワクした。長い時間かけて作ったかいたがあった」

同伴の保護者も「省エネの大切さを知り、あらためて省エネを考え生活して、エネルギーの無駄をなくそうと思いました」「子どもの体験教室を見に来たつもりが、母までが染め物を体験させて頂き楽しかったです。地球全体を見て日々の生活をすべきだと思いました。これからも気をつけていきたいと思います」などとアンケートに答えてくれています。

参加した子どもたちの心に残った環境体験こそが、「今度はこんな事をやってみよう、調べてみよう」という新たな意欲となって花開いていくのだと信じます。このような充実した教室が運営できたのは、準備やリハーサルのために何度もセンターまで足を運び完璧な準備を下さった各教室の担当者の皆様の熱意のおかげです。また、リーダーの一人

一人の環境に対する思いが子どもたちに伝わったからだけでなく、リーダー会の皆様の日常的な環境保全活動があったからこそ可能になったのだと思います。

この教室のために1年前から準備を立ち上げ各教室のまとめ役をされた木本さん、ご尽力をいただいた各教室の担当者の皆様に心より感謝を申し上げます。



子ども環境体験教室

## 受託事業についての役員会申し合わせ

K・リーダー会代表 近藤 作司

平成15年9月8日の役員会において、下記のとおり「受託事業についての役員会申し合わせ」を決定したので、お知らせ致します。

K・リーダー会が直接的または間接的に受託した事業に関し、その受託金のフィードバックの方法について明確な取り決めがないのが現状である。

当会の環境活動が年々活発になり、今後受託事業が増大することが予測される。この問題に関して一定のルールを定め、役員会の申し合わせ事項として取り決めておく必要がある。そこで、役員会として次の申し合わせをする。

#### 【受託事業についての申し合わせ】

##### 1. 対象となる事業

1) 当会に事業全体、またはその一部について委託のあった事業

2) 当会を通して当会の会員またはグループの紹介

依頼があり、受託した事業

3) 当会が主催するイベントにおける物品、資料などの販売

##### 2. 受託金等のフィードバックの基本的な考え方

受託事業の場合、当会は任意団体であるため当会が受託した事業であっても委託者と直接契約することはなく、事業を受託したグループを代表する会員または個人会員との直接契約するケースが多いと考えられる。

このような状況を考えると受託した事業から、その契約の形態によって事業収益として計上するか協力金として納付してもらうことが望ましい。

また、イベントにおける物品等の販売については、協力金という形で一定の金額の納付を受けるべきである。

そして、1.2)の受託事業についてはその都度、当会代表から文書で依頼する。

### 3. 事業収益および協力金

#### 3-1 事業収益

当会が契約者でなくても委託者が当会を実質的な契約者として事業委託をしてきた場合は、委託金から経費（交通費、資料代、材料費、日当など）を差し引いた金額を収益として計上する。

この場合、経費の算定は事務局長と会計の協議によって行い、結果は役員会に報告する。

〔契約の事例〕相模湖町「親子で考える環境展」

#### 3-2 協力金

1) 当会に講師や総合教育などの斡旋依頼があり、

当会の斡旋によって会員個人と契約が行われた場合、受託金の10%以上を納付する。

〔契約の事例〕環境学習アドバイザー

2) 当会が主催するイベント（例：環境展）において、環境グッズ等の販売を行う場合はその収入（売上金）の10%を納付する。

4. この申し合わせは平成16年度に細則とする。

5. この申し合わせは平成15年9月8日から適用する。

## 生ごみリサイクル全国交流大会に参加して

廃棄物・リサイクル部会長 石丸 博司

### 概要

月日 2003年7月4日（金）～5日（土）

会場 東京都庁第一本庁舎 5階大会議場（大きなホールほぼ満員）

主催・共催 生ごみリサイクル全国ネットワーク・東京都環境局

K・リーダー会からの参加者

村山和永さん、狩野光子さん、石丸の3人

第1日午前（全体会場）

講演1「ミルクとワインとクリーンエネルギーのまちくずまきの挑戦」岩手県葛巻町長

人口9,000人、高齢化率31%の町の大変企業家精神に富んだ、形にとられない行動力の高い町長。自然、森林、農業、産業、生活、と町全体が会社のような持続的社會を目指している。あらためて志に富んだリーダーシップの発揮の重要性を知った。

講演2「ふん尿発電とエネルギー利用による循環型社會の構築 八木バイオエコロジーセンターからの報告」京都府八木町長

畜産農家からのふん尿と食品工場、家庭等からの有機性廃棄物を使ったメタンガスを発生させる施設。

データと論理でしっかりとしたシステムを構築していると感心しました。おそらくコンサルタントかNPOが介在しているのではと。これも大切だと貴重な事例でした。

ビデオ上映「ふしぎ！生ごみリサイクル 生ごみたい肥でよい土づくり」25分

なかなかよいビデオです。早速ビデオと絵本購入。家で実践よい成果です。（末尾）

第1日午後

フォーラム1「事業系食品廃棄物とリサイクルの現状と課題」別会場 出席せず。

フォーラム2「みんなで考える家庭系ごみの処理」

話題提供1「家庭系ごみの減量化・リサイクルへ

向けた課題」高田氏 三菱総研

2「自治体の取り組みと今後の動向」

浅倉氏 月間廃棄物

3「名古屋市における生ごみ資源化の取り組みについて」西田氏 名古屋市

4「デスポーザーと生ごみ分解消滅機」

関根氏 秩父市

5「市民と行政の協働による藤沢小学校における堆肥化」

櫛原氏 藤沢小堆肥化

6「家庭系生ごみ収集容器と収集システムの構築」

福渡氏 生ごみリサイクル

上記全員のパネル討議 - 上記話題も大変有効な情報提供でしたが、パネル討議もフロア - も交えて質疑応答と大変活発な論議があり熱気を感じました。裏情報もかなり出され大変有意義なセッションでした。

2日目の見学：2コースとも申し込みましたが満員で参加できず、残念でした。

廃棄物減量とリサイクル・特に生ごみに関しての石丸の所見

「横浜G30プラン」を見てもごみ全体の発生抑制は1割弱、特に家庭用生ごみ資源化目標は20%と目標設定もまた具体的な施策も心許ない。一般に家庭から排出されるごみの30%は厨芥類（台所から排出され生ごみ）。資源化の現状は3%と低く後は焼却、大変お寒い。家庭でのごみの発生抑制をする為には、食べ残しや料理の作りすぎをしない。さらに減量化のために堆肥化をする事がポイント。我が家では生ごみコンポストを始めて2年半。日常排出するごみの量は1/3に減少。週3回の収集を1回減らすことが多くあります。交流会で購入したビデオに沿ったコンポストの実践は大変順調です。今までのやり方は間違っていたこともあり何回か失敗しました。この方は多くの家庭でも出来そうです。

さらに8月6日カナダ・ノバスコシア州の「真の循

環型社会の実現に向けて」のシンポに参加して、「ごみ」ではなく本格的な「資源化」に向けて正面から取り組まなければならないと強く感じているこの頃

です。(廃棄物リサイクル部会の活動報告もご一読下さい。)

## 最近のある日の環境学習アドバイザー

環境学習アドバイザー 柳川 三郎(9期)

神奈川県では昨年度と同様に、環境学習実践者と環境学習者との情報交換の活性化を支援することを目的として、かながわ県民センター(毎金曜日)と環境科学センター(毎日曜日)に「環境学習アドバイザー」を配置しています。

「環境学習アドバイザー」の役割は

- 1) 環境学習全般に関する県民からの相談への対応
- 2) 環境学習に関する情報を収集・整理し県へ報告

ですが、その内容から当会に相談があり、下表のとおり当会の会員が受託して務めております。

配置場所	かながわ県民センター11階	環境科学センター1階
日時	毎週金曜日 13時～18時	毎週日曜日 10時～16時
環境学習アドバイザー	児玉勇(6期) 木本光昶(8期) 石丸博司(9期) 3名が交代で担当	内藤克利(7期) 斉藤美代子(7期) 柳川三郎(9期) 3名が交代で担当

各環境学習アドバイザーは、担当した日の業務報告書を所定様式で県へ提出しています。下記は私が担当した最近のある日の業務報告書の内容です(所定様式から記述内容を抜粋したものです)。

### 環境学習アドバイザー業務報告書

平成15年8月24日

環境計画課長 殿

環境学習アドバイザー 柳川 三郎

【相談内容と対応】

1. 鶴川から遠路見えた、玉川学園小5年生、母と妹の3人、海がすきで“きれいな海をまもるには”で、今年佐渡へ行き、きれいな海に感動したとの事。海は地球の貴重な財産で、海は単独でなく山の森から川そして私たちの周りの自然も影響していること、まず家庭生活で風呂水の洗濯への活用、省エネ対策として待機電気に注意、不要な電気はこまめに消すこと、車の利用を減らすこと等、毎日点検して×を継続的にやってほしい、母親はいずれも現在やっていないがやるといつてくれた。地球温暖化防止対策は海を守るために必要を強調しました。
2. 中井から来てくれた、中学一年と母と妹、地球

が心配で地球温暖化防止対策について、何をやっていいかわからない由、丁度、ケナフ部会の小川氏がいてくれ朝日新聞のスクラップをきれいにボール紙に整理してあり、内容は海が沈む、南アジアの深刻な水害、林を守る知恵豊かさ・地球どっちも大事、地球温暖化防止対策10項目等でコピーをした。私と一緒に目線に対応してくれた仲間感謝一杯です。

3. 藤沢から夫婦で来てくれた、かつて2年前にもお世話になって、センターが役立つと考え沢山の展示パンフ・チラシを持って帰られた。
4. 海老名から仲間、5期、40代の藤木氏が来てくれた、飲食の仕事とエネルギー部会で頑張っている、仕事とボランティアを継続している行動は見事です。
5. 仲間のケナフ部会7人が、27日予定の子ども環境体験教室の予行練習とリーダー会役員会の報告とケナフ草むしりをやっていた。私から神奈川大学元教授の釜野氏著書のケナフ本をあげた。氏はケナフについての我が国第一人者です、みんな初めて見るようで喜ばれた。ケナフについて紙すきや勉強会をリーダー会員でやろうとっていました、私も賛成です。

【環境情報】

今日ほど神奈川県・環境科学センター・平塚市等の行政で作成している地球温暖化防止対策の小冊子やテキスト・チラシ・パンフが役立つことはありません(私の手持ちは全部差し上げました)私の予想より地球が心配との子どもたちが多いことはわれわれ世代ももっと考えていくべきと痛感いたしました。

- ・行政の皆様、更に知恵を絞って広報活動をよろしくおねがいします。
- ・センターへ：前記のチラシ・パンフがこの夏休み良く売れています(前年より大幅活用)在庫がありましたら補充をお願いします。

【回答を保留した事項】なし

【その他報告事項】

- ・アドバイザーを担当して、来てくれた皆様が私との会話に子どもも親も目を輝かせてくれていること嬉しいことです。
- ・更に昨年と今年、沢山の良い書籍を購入して下さった環境計画課に感謝いたします。

# 第1回地域活動連絡会開催の報告

地域活動サポート部長 木本 光昶

この7月発行の会報 No.33 でお知らせしたように、8月28日かながわ県民センターにおいて「第1回地域活動連絡会」を開催いたしました。

既に、地域活動を実践している会員、これから新たに地域活動を立ち上げようという会員など24名が参加しました。

最初に、「地域活動の支援・推進」について木本が説明した後、次の3氏による地域活動の事例発表が行われました。

- 1 「ふるさと環境市民の会」近藤作司 氏
- 2 「金目川をきれいにしよう運動」柳川三郎 氏
- 3 「神奈川区環境問題を考える会」児玉勇 氏

この後、参加者による活発な質疑応答と意見交換が行われました。その主なものを以下にまとめました。

## 【質疑応答】

### 1. 地域活動の支援・推進について

Q：地域活動サポート部が地域活動グループとネットワークをつくり、情報交換などを行うということであるが、地域活動グループと各部会の関係はどうなるのか。

A：各部会と地域活動グループとの直接交流も大いに進めていくべきだと考えている。部としても支援していきたい。

### 2. 地域活動の進め方について

Q：地域活動の立ち上げはどのようにしてはじめたか。

A1：2~3名からスタートしたが、互いに協力することによって芽が育つ。

A2：ダイオキシン問題の学習会がきっかけで始めたが、グループの活動は代表者の行動力によるところが大きい。

A3：行政と一緒に何をやるかを考えることが始まりであった。自分たちが行動を起こせば行政が乗ってくる。

A4：横浜市で生涯学習を行う場合、各区役所の地域振興課生涯学習支援係に10~12万円の予算がつく。講師を招いて勉強会を開いたり、施設や企業の見学会を行うことによって生涯学級を立ち上げることができる。

A5：町の基本計画作成のワークショップに参加したことがきっかけで、それから話し合っってネットワークを立ち上げるようになった。

A6：自分の意見をしっかりと持つことが大切、これが継続の力になる。

Q：地域活動の広報活動や人集めはどのように行っているか。

A1：市の広報誌やタウン誌による広報やパンフレ

ットを使ってPRしている。

A2：地球温暖化防止活動に関するPRを川崎市の広報誌（発行部数約60万部）によって大々的に行ったが、反応はゼロに近かった。人集めのシステムを考えておくべきである。

A3：地域によって広報活動のあり方は異なるのではないか。市の広報誌によって多くの人が集まったケースもある。

A4：人集めの問題については次回のテーマとしてはどうか。

## 【意見交換】

### 1. 次回の連絡会について

1) この連絡会は今後も継続したい。2~3ヶ月に1回程度開いてはどうか。

2) 次回開催するのであれば、地域活動を行っている人たちの共通問題、例えば人集めに絞ってやるべきだ。

3) これから新たに地域活動を立ち上げようとする人たちへのノウハウや情報提供を優先したい。

4) まず、実践することが大切。議論するだけでは意味がない。

その他多くの貴重なご意見を頂きました。また、会の終了後、横浜市で仲間と一緒に生涯学級を立ち上げることを検討しているという意思表示をした会員がいました。

そして、当日の参加者から次のような主旨のメールを頂きました。

「柳川さんの事例発表を聞いて、金目川に対する思いがいかに強く、それが活動の原動力になっていると感じた。

また、今後の連絡会の進め方については問題点を絞ってやるべきという意見があったが、自分たちの会でも多くの問題点を抱えている。今後は今回のような事例発表を年2回程度開き、問題点を掘り起こしていくべきではないか」

事例発表の講師ならびに参加者のみなさん、活発な質疑応答と数多くの貴重なご意見ありがとうございました。皆さんから頂いた貴重なご意見を、地域活動サポート部を含め、今後の地域活動連絡会の運営について反映させたいと考えています。

なお、事例発表の内容について知りたい方は、私にご連絡頂ければレジメのコピーをお送りします。

## 【連絡先】

〒223-0051 横浜市港北区箕輪町1 30 1 319

木本 光昶

TEL/FAX 045-563-4597

Eメール tkimoto38@ybb.ne.jp

# 郡小研 家庭科部会の研修会

8期 近藤 作司

去る8月20日、郡小研 家庭科部会(足柄上郡小学校教育研究会)の先生方と「授業に生かせる環境学習の実験と先生方自身の知識向上を目指して」汚水のパックテストとNO<sub>2</sub>検査の研修会を実施しました。

参加された方は、山北町立清水小学校の岩田教頭先生(家庭科部長)を始め、郡下各小学校の家庭科担当の先生方13名でした。

本研修会は、郡小研幹事の先生から環境科学センターに照会があり、センターからK・リーダー会を紹介いただきスタートしました。数度の電話による打ち合わせを経て、水質分析とNO<sub>2</sub>の簡易測定を中心とする研修を行う事に決定しました。

水質分析は、サンプル水(酒匂川とその支流)を持ち寄り、透視度検査とpHおよびCOD測定としパックテストによる事にしました。またNO<sub>2</sub>は測定地を松田・開成町等6ヶ所とし、予めセットしたカプセル(捕集管)を用い、前もって24時間屋外吸収したサンプルをエコアナライザー(スポイト式比色計および吸光光度計)で測定する事にしました。

当日は、中井町立井ノ口小学校理科室にて8時50分から11時10分まで研修しました。先ず岩田先生から研修の趣旨説明があり、次いで柳川さん(9期)から、環境学習の観点から身近な地域の生活環境に目をむけて、観察・調査・測定・聞き取り・表現など具体的な活動を通じて関心を高めて頂きたい旨

お話ししました。そして川の水を調べる意義や水質汚濁など生活関連の話のあと透視度の実測、pHとCODの測定を一人一人が体験しました。次に近藤(8期)が大気汚染、酸性雨や自動車排ガスなど関連する話のあとNO<sub>2</sub>測定を実際に体験していただきました。

水質の測定、NO<sub>2</sub>の分析など先生方は熱心にそして楽しそうに取り組んでおられました。(実験に際しては地元のK・リーダー会員山崎さん(9期)が手伝ってくれました。)

終了後のふりかえりでは、透視度測定は初めての経験とか、CODやNO<sub>2</sub>の測定値が低かったので足柄上郡の自然がきれいであることが分かり安心したなどの話が聞かれました。ペットボトルを利用して簡易透視度計が作れる事や、パックテストを用いての水質分析など授業に生かしたい等のお話を伺い、この研修が有意義であった事を感じました。

岩田先生はじめ幹事の藤沢先生(上大井小)、石渡先生(川村小)、当日は出張のため欠席された瀬戸先生(松田小)の皆様には大変お世話になりました。また私たちの研修に向けて事前の準備、テキストの作成にご協力をいただきました。また実験器材等では環境科学センター並びにK・リーダー会環境モニタリング部会の支援をいただきました。改めて感謝申し上げます。

## 部会活動

### 環境モニタリング部会

部会長 佐伯 秀夫

活動報告(7月~9月)

#### 1. 環境モニタリング活動

##### 1) 自然系

・タンポポのモニタリング調査:  
調査データ提出締切り。

1,191件(11人分)のデータで環境マップ作成済。

・ツバメのモニタリング調査:

7月末現在、19人より114件のデータ提出あり。

データ提出締切を延期中なので、未提出データの提出を乞う。

#### 2) 水質系(酒匂川探水隊活動)

・実施日:7月21日(月)、9月14日(日)

・場所:酒匂川水系で実施

#### 3) 大気系

上半期の二酸化窒素測定調査結果(16名及び1団体の協力による172件の測定値)に基づき環境マップ作成済。

#### 2. 部会開催

・日時:9月20日(土)、10時半~12時半

・場所:横浜市市民活動支援センター

・内容:環境モニタリング諸活動の結果及び協力依頼、「子ども環境体験教室」協力結果、部会の今後の進め方、その他

#### 3. その他

##### 1) 子ども環境体験教室への協力

同教室初回の7月22日、「ツバメ、朝顔で環境

チェック」のタイトルで半日体験教室を担当した。

活動予定(10月～12月)

### 1. 環境モニタリング活動

#### 1) 自然系

ツバメのモニタリング調査：環境マップ作成。

ジョロウグモのモニタリング調査：9月中旬～11月中旬に調査し、11月末データ提出締切。県民参加大歓迎。

#### 2) 水質系(酒匂川探水隊活動)

・実施予定日：10月12日(日)

・集合場所：JR松田駅前広場、9時

#### 3) 大気系

・実施予定日：

捕集管の組立配布は11月29日(土)

24時間サンプリングは12月4日(木)～5(金)

分析測定は12月13日(土)

・特記事項：環境科学センターが実施する環境調査コース追加講座の内、12月上旬に予定されている大気中二酸化窒素測定実習結果も含めたマッピングが可能になるので、多数の会員の参加を期待したい。

### 2. 部会開催

・日時：11月29日(土)、10時半～12時半

・場所：環境科学センター会議室

・内容：今年度のモニタリング結果のまとめ、次年度の計画、その他

## エネルギー部会

部会長 北村 博子

活動報告(7月～9月)

### 1. 部会

1) 8月31日(日)14:00～17:00、県民C.702

参加：萩原、藤木、下條、高橋、(吉川)、北村

「専門部会活動のあり方について」議論。

部会のミッション(行動理念)について

「K・リーダー会のミッション未検討・未確認なままに、部会のミッションを決めて良いものか・又決められるものか」部会員から問題提起されたが、下記事項を当部会の共通認識とすることにしました。

「部会員相互の連絡・啓発並びに環境学習及び実践者養成講座で修得した知見と、具体的な活動から得た知見とを、地域の環境学習や環境保全活動に活かし、エネルギーの少消費型ライフスタイルの率先実行とその普及・啓発によって、持続可能な社会の実現を目指す。」

活動方針

・エネルギー少消費型生活の率先実行と、その普及・啓発。又、率先実行の結果を具体事例として、エネルギー少消費型生活の普及・啓発活動の場で示す。

・省エネ学習教材の作成と普及

・講師・人材派遣

・新エネルギー啓発

・環境家計簿啓発

・省エネルギー診断

短期計画

・KERC子ども環境体験教室受託講師派遣

・市民環境活動報告会参加・パンフ配布等

・各種行政・学校・団体等から依頼された、生涯学習・総合的学習・イベント等への講師・人材派遣

・K・リーダー会主催環境展参加出展、K・リーダー会協賛環境展参加出展

・K・リーダー会地域活動サポート部・地域活動グループからの要請に基づく催事等への参加

・各種団体主催講習会等への研修要請派遣

・資格等の取得

・環境家計簿試行

・新エネルギー情報収集

中期計画

・環境家計簿試行・啓発

・省エネルギー診断

・新エネルギー啓発

・その他行政・企業等への提言・提案等

2) 9月28日(日)14:00～17:00 県民.C

2. 「チビッコチャレンジ教室」7月12日(土)

平塚市金目公民館

参加：下條、青野、北村

神奈川県環境学習リーダー・エネルギー会(以降、KELEと云う)を後援

対象者：小学生18名

参観者：平塚市環境政策課、平塚市教育委員会、小学校校長

内容：「電気の実験・電気の測定・エコカルタ取り・身近な地球温暖化防止対策」等

3. 「省エネでスマートな生活を」7月12日(土)

内閣府広報番組：TVK放送

出演：北村(KELE)

内容：「身近な省エネで温暖化防止・私たちに出来る省エネ生活5箇条」等

4. 秦野市環境家計簿モニター研修会  
7月18日(金): 秦野市本町公民館  
講師: 北村 (KELE 後援)  
対象者: 秦野市環境家計簿モニター  
内容: 「身近に出来る地球温暖化防止対策」
5. 「節電コンセントを作ろう」  
子ども環境体験教室: 7月27日(日)、KERC  
参加: 藤木、萩原、下條、高橋、青野、北村  
KELE と合同  
対象者: 小学生 23 名  
内容: 「地球温暖化とその影響・エコカルタ取り・身近に出来る地球温暖化防止対策・電気の実験・電気の測定・節電コンセント作り」等
6. 「節電コンセントを作ろう」  
子ども環境体験教室: 8月23日(土) KERC  
参加: 萩原、児玉、高橋、山田、青野、北村  
KELE と合同  
対象者: 小・中学生 19 名  
内容: 「電気の実験・電気の測定・節電コンセント製作・地球温暖化とその影響・エコカルタ取り・身近に出来る地球温暖化対策」等
7. 「夏休み省エネ工作教室」8月24日(日)  
参加: 下條、青野、北村  
横浜市緑区白山センター

KELE を後援  
対象者: 小学生 12 名  
内容: 「電気の実験・電気の測定・節電タップ製作・地球温暖化とその影響・エコカルタ取り・身近な地球温暖化対策」等

- 活動予定 (10月~12月)
1. 「エコ・ゲームを体験しよう」  
港北区生涯学級・環境学習  
KELE を後援  
10月11日(土) 10:00~12:00  
港北区役所  
対象者: 小学生親子  
内容: 「電気の実験・電気の測定・地球温暖化とその影響・エコカルタ取り・身近な地球温暖化防止対策」等
2. 秦野市環境家計簿モニター事業省エネ診断  
11月15日(土) 意見交換会  
KELE 後援  
対象者: 秦野市環境家計簿モニター
3. 部会  
・10月26日(日) 14:00~17:00 県民 C.602  
・11月16日(日) 14:00~17:00 県民 C.701  
・12月 7日(日) 14:00~17:00 県民 C.

## ケナフ部会

部会長 荒谷 輝正

活動報告 (7月~9月)

ケナフ部員が携さわた 7月~9月までの活動について報告します。

8/4 海老名市主催の「親子ケナフ紙漉体験教室」開催する。小川、河西、安倍、荒谷。大変好評裏に終了しました。

8/18~20 開催の「子ども環境体験教室・写真立てを作ろう」準備実施、順調に終了。

8/20 「子ども環境体験教室・写真立てを作ろう」開催。保護者を含め 27 名参加。順調に、かつ好評裏に終了。古沢、高尾、小川、鈴木、荒谷

8/24 ケナフ部会 8月定例会  
圃場の清掃、8/27 のケナフ花染め教室準備、その他報告事項の説明

8/27 「子ども環境体験教室・ケナフ染めに挑戦しよう」開催する。保護者を含めて 35 名参加。大変好評裏に終了、小糸、小川、安倍、高尾、荒谷

9/16 愛川繊維会館にて、国際ソロフィストのメンバーに紙漉指導。荒谷

9/28 ケナフ部会 9月度例会開催

その他、藤沢市暮らし町作り委員会で随時「ケナフ紙漉」を実施しました。小糸

活動予定

10/4 相模原市北公民館「大野北ゆめ教室」紙漉体験・・・荒谷

10/7 秦野市でケナフ花染め実施  
大秦野高校で実施予定、早野外

10月 横浜市東品濃小学校紙漉実施

小川 (日程不明)

藤沢市高谷小学校紙漉実施

小糸 (日程不明)

藤沢市新林小学校紙漉実施

小糸 (日程不明)

藤沢市大道小学校紙漉実施

小糸 (日程不明)

その他、話が有りますが確定していませんので割愛します。



# 自然環境部会

自然環境部会担当 高田 重直

活動報告・活動予定(8月~10月)

平成15年度第1回意見交換会および自然観察会を10月18日(土)、19日(日)に実施します。

10月18日(土)

意見交換会 相模湖町交流センター

議題： 部会活動の見直しについて  
受託事業のあり方について

その他

宿泊：温泉旅館「五本松」

10月18日(日)

“緑のダム・体験学校”参加

豆知識のページで紹介している内容を、皆さんにも体験して頂くべく準備を整えました。

詳細は添付チラシをご参照頂き、ふるってご参加頂きたく宜しくお願いいたします。

# 廃棄物・リサイクル部会

廃棄物・リサイクル部会担当 石丸 博司

活動報告(8月~9月)

1. 8月12日(火) 定例会(13:00から)

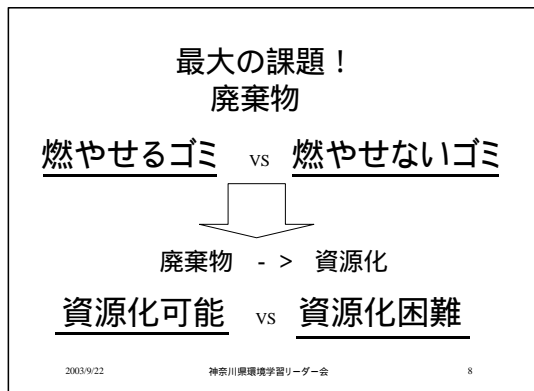
出席者：内藤さん、黒澤さん、石川さん、石丸

主な課題：

8月6日の「真の循環型社会の実現に向けて」カナダ大使館。カナダ・ノバスコシア州の「資源管理戦略に学ぶ」について意見交換。今後の日本での循環型社会の構築に大変有意義なシンポジウムであった。

日本では廃棄物について

- ・燃やせるごみ vs 燃やせないごみに対してカナダでは「脱焼却」「脱埋め立て」と基本路線が異なり
- ・資源化可能 vs 資源化困難といったところから各種施策が来ている。「ゼロ・ウエスト」の先進国として大いに参考にしていく必要がある。



内藤さん編纂の環境ビデオ全6巻の今後の活用方法について話し合う。

環境ビデオ

- 「地球サミットからの報告」「環境とエネルギー」「今都市環境は」等
- 「酸性雨を考える」「雑木林は語る」「青い地球を探せ」「京都の地下水」

「快適な環境を作る」「取り戻そう水の笑顔」「きれいな大気を保つ為に」

「あなたが主人公 - 循環型社会作り」「地球のためにできること」など

「焼却炉の解体が出来ない」「レスターの環境教室」「地黄砂の謎を追え」

「いのちある地球にいきる」「環境にやさしいライフスタイル」他

一部鑑賞しながら今後の活用方法と作成について話し合う。

2. 9月9日(火) 定例会(13:00から)

出席者：近藤さん、内藤さん、黒澤さん、石丸

主な課題：

- ゼロ・ウエストの動向について 黒澤さん
- オーストラリア・キャンベラの例とカナダ・ノバスコシア州の資源管理戦略について情報提供 我々として今後の活動について話し合う。
- 生ごみ全国交流大会に参加して 石丸
- 廃棄物・リサイクル部会の今後の活動として話し合う。(別記載石丸からの報告参照ください)

今後の活動として上記2点の考え方を部会としての活動の視野に入れ方向づけをしていきたい。

活動予定

10月7日(火) 13:30~17:00

えびな市民活動サポートセンター(第1会議室)

TEL: 046-235-0835

11月11日(火) 13:30~17:00

上記に同じ

12月9日(火) 13:00~17:00

上記に同じ

関心のある方ご連絡ください。参加お待ちしております。

石丸博司

E-mail: isimaru@rd6.so-net.ne.jp

TEL/FAX: 0463-94-8187

〒259-1114 伊勢原市高森4-7-14

= 豆知識のページ =

## 「NPO 緑のダム 北相模」の紹介

自然環境部会担当 高田 重直

私が“NPO 緑のダム 北相模”と出会ったのは、2003年6月15日、神奈川県企画部、相模湖町ならびにNPO 緑のダム 北相模の協働事業として行われた「緑のダム・体験学校」に体験入学してからです。

その時の参加メンバーは、一般公募で参加した人、県の職員、相模湖町の職員、当NPOの教授陣、それを支えるスタッフ等約30名でした。

9:30に相模湖駅改札口に集合し、案内役の先導で旧甲州街道を通り相模湖から相模ダムを經由し流木チップを観察して相模湖町の里山である“嵐山”の麓のお花畑広場に到着し、そこで“NPO 緑のダム 北相模”の紹介と当日お世話して頂く教授陣の紹介を受け、2班に分かれ、「森の生態系～水源観察」と「樹木観察～間伐体験」を体験いたしました。午後は、逆になったので、結果的に両方のカリキュラムを受講したことになります。

ここで、“NPO 緑のダム 北相模”の紹介を致します。

東京都に本部のあるNPO法人で身近な自然の保全を目的に、“森林所有者と地域住民に対し、これらの人々と協力し、森林と森林周辺地域の整備事業を行うことによって、森林保護と再生に寄与すること、及び社会全般に森林保護の必要性を訴えること”となっており、主として相模湖町の里山である“嵐山”を中心に活動を行っておられます。

通常の定例活動は毎月第1土曜日と第3日曜で、森林整備と生態系の調査と甲州古道復活プロジェクトが進行中です。

詳細は“NPO 緑のダム 北相模”のHP(下記)を参照下さい。

<http://www008.upp.so-net.ne.jp/kitasagami/index.htm>

私が参加した日のカリキュラムは“嵐山”に登りながら、木の役目、木の名前、炭酸同化作用、葉っぱの役目、葉のいろいろを事典からの樹木名検索や自然の観察方法を体験しました。また、森のはたらしとして人工林、自然林、天然林、森林と山、森林の役目、林産物生産機能、水源かん養機能を学びました。圧巻は、のこぎりと鉋を使って間伐の実作業を行い、サンプルを切取って、木の成長過程の理解と確認をし、枝の成り立ちを学びました。お昼は、「NPO 緑のダム 北相模」のスタッフのおもてなしで、地元で採れた野菜を中心とした“なべ奉行特別料理”をおご馳走になりました。当日は、自然の中に一日どっぷり浸って、森林浴をしながら、とても楽しく過ごさせて頂きました。

さて、来る“平成15年度第1回意見交換会および自然観察会”は当地で開き、皆さんにも同じ体験して頂くべく準備を整えております。詳細は別紙をご参照頂き、ふるってご参加頂きたく宜しくお願いいたします。

### 会員の広場

## パンドラの壺を ご存知ですか？

8期 岡安 明

小さな頃に読んだギリシャ神話の中で、特に心に深く残った話に、パンドラの壺(はこ匣)があります。全能の神ゼウスが火を手に入れ絶頂期の奢れる人間に対して、パンドラという絶世の美女を人間界へ送り込みました。パンドラは、ゼウスからどんなことがあっても決して開けてはいけない、と言われた壺を一つ携えて人間の元へやってきました。幸せな日々が続きましたが、パンドラは、日が経つにつれ、開けてはいけない壺の中身を見たいという気持ちを抑えきれなくなってきました。

ある日、一人船を青い海原に漕ぎ出し、周りに誰もいないことを確かめると、壺を開けてみました。開けた途端、壺の中からおどろおどろしい悪霊、病気、災いが次々と人間界へ飛び出してしまいました。後悔と失意に恐れおののいたパンドラは、壺の底に微かに光る物を見つけました。恐る恐る取り出すと、それは、「希望」でした。

今、世界中至る所で、パンドラが引き出してしまった災い、戦争、病気、飢餓など悲しい事で溢れています。それを救うのもあの壺の底に残された「希望」だと考えます。人間に残された希望を実現する為に、私たちは、今グローバルな視点で考え、生活している地域で自分の出来る事を、地道に行うことが、必要だと思えます。だから、私たち茅ヶ崎在住の学習リーダーは、茅ヶ崎環境フェアー・環境市民講座の企画をたて推進しています。本当に空っぽになってしまったパンドラの壺を、私たちの子孫に渡さない為に！

# 賛助会員として 何をやるのか

賛助会員 青山 尚巳

この6月に環境科学センターを転出したのを契機に、環境学習リーダー会の仲間入りをさせていただきました。賛助会員第一号ということだそうで光栄に思っております。環境学習リーダー養成講座がスタートした平成5年に環境科学センターに転勤してきて以来、10年間お世話になりましたが、うち4年間は環境学習を担当させていただきました。結果的には環境学習リーダーの皆さんから教えていただくことのほうが多く、皆さんの多彩な特技や専門知識をなんとかうまく活かせる方法はないか、どうしたらお役に立てるかといつも考えていたような気がいたしますが、あまり大したことが出来なかったという未練が、賛助会員へのきっかけかもしれません。これからは賛助会員として皆さんに加わり、行動

していきたくと思いますが、何分、まだ環境の仕事にどっぷりと浸かっている身です。今は時間の許す範囲で、少しでも日本の残された街並みを見てみたいと思い、こつこつと五街道など旧街道を歩いています。知ってる知ってるまだ歩いているのかと言う方もいると思いますが、やっと奥州街道（宇都宮～白河）を残すだけとなり、今年中には何とか五街道を完全踏破できそうです。各地を見て歩くと、日本では是非残したい街並みがどのようなものか自然と心に伝わってきます。今や忘れられそうな旧道沿いの街でも元気に保存された魅力ある街に一步踏み込むと、すぐに市民と行政の協働の意気込みが伝わってくるから不思議です。

多彩な取組みを行っている環境学習リーダー会の究極の願いも同じところにあるのかもしれませんが、皆さんと一緒にこつこつ歩いていきたいと思っております。

## 地域通貨の広がり

8期 酒井 和子

昨今「地域通貨」ということばを新聞で散見するようになりました。これは国が発行する通貨である「円」に対してある地域や共同体が発行しその中でのみ流通させていくお金のことです。円が財やサービスの交換を目的としているのに対して、地域通貨は主に円に換算することのできない価値を交換することで地域内の人々の相互コミュニケーションの円滑化を目的としています。今ではこのような地域通貨を発行し運営している団体は日本全国で大小併せて300を超える広がりを見せています。

私がこのお金に興味を持ったのは次の3点からです。

一つは地域通貨の思いやりを基盤にした理念に共感したこと。

と共にこのお金が多くの場合流通期限が限定されるなどして「貯めこまれない」システムを持っている、つまり利子の問題が発生しないという点です。というのも現行の法定通貨は利子が利子を生み、増殖され实体经济よりはるかに膨張した規模になっています。そして「マネーゲーム」と称せられるようになるときは一国の経済を極く短期間で破壊することさえ厭わないその暴走にうんざりしていたからです。

第3点は地域通貨が福祉、教育、環境等人間活動に関するあらゆる分野で活用できる点です。具体的には高齢者の病院のつきそい、パソコン操作の補助、植林活動などです。

現在夫の勤め先の大学では携帯電話を使った地域通貨「ちゃちゃ」を使っています。ここでは上記の地域通貨の使用に加えて、キャンパス内のコミュニケーションの円滑化を図るためちょっとしたお礼やお詫び、激励のことばと共に教職員間で地域通貨を送ることも試みたところ学生がのってきているようです。

私は特に環境に特化した目的に使う方法を模索中で、環境家計簿などを利用しそれを数値化して地域通貨と交換するなどができればいいのではと思っています。

これに関しまして読者の皆様にアイデアがありましたらお教え下さい。

### 寄稿歓迎

この「会員の広場」は皆さんの文を掲載する頁です。

皆さんが考えている事、知らせたい事、活動した内容、などなどを広報部へ送って下さい。

広報部

# 化学物質と私

2期 上野 和雄

ホルムアルデヒド（ホルマリン）は今日シックハウス症候群や発ガンの原因物質として有名となった。私は企業の研究所で長年このホルムアルデヒドと付き合ってきた。40～50年前の実験室は排気設備も不完全で、強い刺激臭が立ち込め、鼻や目が痛く涙が滲む状態であったから、現在厚生省が決めようとしている室内濃度 0.08ppm とはかけ離れた濃度であっただろう。

それ以外にも多種類の化学薬品と接触したが、実験の失敗から室内に有害ガスを充満させたり、時々小火災や小爆発もあった。薬害に対する個人差の問題も体験した。同じ化学物質を取り扱っても、皮膚に炎症を起こす人とそうでない人がいるし、同じように炎症を起こしても2、3時間で治る人と1週間かかる人がいる。

その後、高度成長時代の進展と主に人間尊重の思想が芽生え、労働安全衛生法、公害防止法、化審法、PRTR法などの法規制が施行するに至った。実験室の設備も完備され、危険な作業には保護具の着用を義務付けられるようになって来た。化審法が1973年制定されたが、それ以前は化学物質に関する毒性データも殆どなく、実験者自身も一部のものを除いて、無関心、無頓着であった。現在でも使用されている化学物質が数万種類ある割には毒性データの数は少ない。しかし最近はデータも順次充実しつつあるようで、昔に比べて大きな進歩だと思う。

企業経営ももはや環境を無視しては成り立たない時代になって来ている。最近の出願特許を見ても、より低毒性の化学物質への代替技術が多く見られる。私自身、化学品商社との旧交もあり、マーケティングのお手伝いもしているので、今後とも顧客に対してより安全、低毒性、低環境負荷の化学品を奨める活動を続けたいと思っている。

## 通信欄から

会計担当 柳川 三郎

会費納入時に振替用紙の通信欄に記入していただいた便りを以下に紹介します。

会費納入の時、皆様の気持ちをメッセージしましょう。振替用紙の通信欄を活用しましょう。

二見博幸さん（8期、平塚市）からの便り：  
会費納入が遅くなりご迷惑をかけました。現在は不法投棄対策にかかわるNPO活動をしています。

## 掲示板



会計からのお願い

会計担当 柳川 三郎

平成15年度の会費未納者は現在65名です。お送りいたしました郵便局の払込取扱票で是非、早めに会費納入をお願いいたします。

会は皆様の努力で各部会をはじめ様々な活動が活発化しています。会費は活動の重要な原資となりますので、重ねて早めの会費納入をお願いいたします。振込み先：郵便局振替番号：00230-4-30769  
神奈川県環境学習リーダー会

K・リーダー会のパンフレットの改訂

広報部

このたび役員会での決定に従い、当会のパンフレットの改訂を行っています。10月中旬には新しいパンフレットが完成します。新しいパンフレットを必要の方は事務局長へ連絡して下さい。

住所の変更

田中 稔さん

旧住所 横浜市栄区上郷町 2060 - 2

現住所 〒247-0032 横浜市栄区桂台東 5 - 8

TEL No.は同じ

坂本 義信さん

旧住所 藤沢市石川 238

新住所 藤沢市石川 2 - 2 - 16

TEL No.、〒 No.は同じ

## 編集後記

広報部に籍をおいて2年半、今まで広報に全く縁のなかった私が曲がりなりにも広報部員としての責務を果たすことができたのは、広報部の先輩や仲間それに会員の皆さまのお陰と感謝しています。

ところで、最近あるイベントの参加を勧誘するため電話で直接会報に記載された記事を読みましたかと質問する機会がありました。残念なことですが、読んでいないと回答された会員が意外に多かったのです。

この一事を以って全てを押し測ることは乱暴かと思いますが、この会報ができあがるまでの過程を考えると、どのような関心を持って皆さんに読まれているのか大いに気になるところです。

広報部 木本 光昶

発行人：神奈川県環境学習リーダー会

代表 近藤 作司

編集人： 広報部長 黒澤 宏

TEL/FAX 0463-88-5193

発行日： 2003年9月30日